

京都精華大学創立50周年記念連続講演会

〈1968〉の文化 ～そのとき、何が起きたのか～

KYOTO SEIKA UNIVERSITY
50TH ANNIVERSARY

KITANAKA MASAKAZU

SASAKI MIKIRO

TAKATORI EI

MIKAMI KAYO

FUJIWARA HIROSHI, TSUJI MEGUMU

文学 10月26日(金) 18時 佐々木幹郎 [詩人]

「1968年の詩」

音楽 11月9日(金) 18時 北中正和 [音楽評論家]

「バリケードと音楽 ～1968年の風景とサウンドスケープ～」

演劇 11月23日(金) 18時 高取英 [劇作家・マンガ評論家]

「アングラからサブ・カルへ ～革命の演劇か、演劇の革命か、それとも～」

舞踏 12月7日(金) 18時 三上賀代 [舞踏家・京都精華大学教員]

「王方巽と日本人 ―肉体の反乱(於・日本青年館1968・10を中心に)」

時代 12月22日(土) 13時30分

藤原ヒロシ [ミュージシャン・デザイナー] × 辻恵 [弁護士・元東大生共闘]

「世界を変えることはできるのか？」

「会場」 京都精華大学清風館 入場無料・申込不要



KYOTO SEIKA UNIV.
50th ANNIVERSARY

「1968」の文化とそのとき、何が起きたのか?

自由と自治の大学である京都精華大学は1968年に誕生した。そこには時代の要請があったといえる。1968年は、パリ五月革命、プラハの春など、世界中で若者たちが自由と解放を求めて既存の体制に異議申し立てを行なった年だ。日本でもベトナム反戦運動、全共闘運動に多くの若者が参加した。しかし、1968年をただ政治の季節として語ることはできない。時代の問題意識は文化シーンにも共振り、文化諸ジャンルにおいても大きな転換が起きた。現在の文化シーンも「1968」を通過して築かれたものだ。「1968」に何が起きたのか、そしてそれは現在にどのような影響を与えているのか。各ジャンルの第一人者を迎え、「1968」の文化を通して現在をとらえる。

【会場】京都精華大学清風館 入場無料・申込不要 【お問合せ先】京都精華大学経営企画グループ 50周年事業担当 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 TEL 075-702-5201 kikanu@kyoroseika.ac.jp



SEIHWA UNIVERSITY 50TH ANNIVERSARY
SASAKI MIKIRO, KITANAKA MASAKAZU, TAKATORI EI,
MIKAMI KAYO, FUJIWARA HIROSHI, TSUJI MEGUMU

文学 10月26日(金) 18:00
佐々木幹郎 [詩人]

SASAKI MIKIRO

「1968年の詩」

1967年10月8日、アメリカによるベトナム戦争に反対する第一次羽田闘争で、京都大学文学部一回生の山崎博昭(18歳)が、空港に通じる弁天橋の上で死亡した。彼の死はその後続く全共闘運動の起爆剤となった。何がそうさせたのか。文学はこのとき、どのような役割を果たしたのか。

ささき・みきろう●1947年生まれ。同志社大学文学部哲学科中退。1970年の詩集『死者の鞭』(構造社)で出発し、以後の詩集に『蜂蜜採り』(書肆山田、高見順賞)、『明日』(思潮社、萩原朔太郎賞)など。評論集に『中原中也』(筑摩書房、サントリー学芸賞)、『アジア海道紀行』(みすず書房、読売文学賞)など。最新刊に『中原中也—沈黙の音楽』(岩波新書)。共著に『大正—歴史の踊り場とは何か』(講談社選書メチエ)。

音楽 11月9日(金) 18:00
北中正和 [音楽評論家]

KITANAKA MASAKAZU

「バリケードと音楽 ~1968年の風景とサウンドスケープ~」

1968年に記録的な大ヒット曲が生まれた。京都の大学生が自主制作し、67年末に発売された「帰って来たヨッパライ」だ。そのヒットは燃え上がる若者たちの運動に呼応し、来るべき時代を予言する現象のさきがけだった。激動の社会と交差したフォーク、ロック、ジャズの動きをたどる。

きたなか・まさかず●1946年奈良市生まれ。京都大学理学部卒。音楽評論家。東京音楽大学講師。新聞、雑誌、放送などで世界各地の音楽を研究、紹介している。2000年から2012年までNHKFM「ワールド・ミュージック・タイム」のDJをつとめた。WEB音楽雑誌「ERIS」編集協力。著書に『ロック史』『にほんのうた 戦後歌謡曲史』『毎日ワールド・ミュージック』、編著書に『事典 世界音楽の本』『細野晴臣エンドレス・トーキング』『青島幸男読本』など。

演劇 11月23日(金) 18:00
高取英 [劇作家・マンガ評論家]

TAKATORI EI

「アングラからサブ・カルへ ~革命の演劇か、演劇の革命か、それとも~」

60年代後半のアングラ演劇がカウンター・カルチャーであった意味、それが、サブ・カルの先駆であったことを語る。演劇だけでなくピンク映画、ヤクザ映画、マンガにも触れ、文化の反乱がもたらしたものを、寺山修司、唐十郎、若松孝二、「あしたのジョー」、永井豪、竹宮恵子を取りあげながら語り、戦間美少女の先駆についてもとりあげる。

たかとり・えい●1952年生まれ。大阪市立大卒。寺山修司のスタッフの一方、1977~1978年、「漫画エロジェニカ」編集長として三流劇画ブームの一翼を担う。劇作家として活動の後、86年、月蝕劇団を旗揚げ。「聖ミカエラ学園漂流記」はアニメ化され、自身が監督でVシネマ化。京都精華大学マンガ学部教授の後、大正大学表現学部客員教授。著書に「聖ミカエラ学園漂流記」(電撃文庫)「寺山修司—過激なる疾走」(平凡社新書)など多数。

舞踏 12月7日(金) 18:00
三上賀代 [舞踏家・京都精華大学教員]

MIKAMI KAYO

「土方巽と日本人—肉体の反乱(於・日本青年館1968.10)を中心に」

明治以降の日本初のオリジナルとして「BUTOH」の名称のまま20世紀を代表する舞踏として全世界に浸透した「暗黒舞踏」は、前衛舞踏家・土方巽の独舞作品「土方巽と日本人—肉体の反乱」への全共闘世代の支持から認知が始まる。が現在まで国内では「芸のない素人の晒すだけの情念の踊り」と異端蔑視が続く。土方巽の功績をいま再照射する。

みかみ・かよ●1953年生まれ。舞踏家。お茶の水女子大学国文科卒、同大学院博士課程修了(学術博士、舞踏学)。学生演劇活動、新聞社勤務後、暗黒舞踏創始者・土方巽、野口操創始者・野口三千三に師事。とりふね舞踏会を主宰し、国内外舞踏公演多数。著書「増補改訂 器としての身体—土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ」(春風社)ほか。

時代 12月22日(土) 13:30
藤原ヒロシ [ミュージシャン・デザイナー] × 辻恵 [弁護士・元東大共闘]

FUJIWARA HIROSHI

「世界を変えることはできるのか?」 TSUJI MEGUMU

〈1968〉の若者たちは何を考え、どう行動したのか。現代文化のリーダー的存在である藤原ヒロシと、元東大共闘でその志を保持し続ける辻恵との対話を通して、時代の核心を浮かび上がらせる。現在に遺された課題は何か、継承すべき思想は何か。現代史の転換点の意義を異なる世代の対話を通じて明らかにする。

ふじわら・ひろし●1964年、三重県生まれ。fragment design主宰。80年代からDJとして活動し、ヒップホップ、クラブミュージックを中心に自らステージに立つ傍ら、UAなど人気アーティストのプロデューサーも手がける。現在、音楽プロデューサー、アーティスト、ファッションデザイナーなど多方面で独自の活動を続けている。半生を描いた書籍に、「丘の上のバンク 時代をエディットする男・藤原ヒロシ半生記」(川勝正幸・著)がある。

つじ・めぐむ●1948年生まれ。東京大学法学部卒。弁護士。元衆議院議員。1967年10月8日、高校同期の山崎博昭の、佐藤栄作首相の南ベトナム訪問反対の羽田闘争での死亡に衝撃を受け、東大共闘として社会変革を目指す。学生運動の敗北後弁護士活動を経て、民主党衆議院議員として政権交代を実現。日本政治の変革のため現在活動中。著書に「デッチあげを許さない・志布志選挙違反事件の真実」、共著に「政権崩壊」(角川書店)がある。